

「わしゃ元気」システムの構築

在学中に「ブール代数」なるものに関心を持った関係で、当時まだ誕生して日も浅い外資系のコンピュータ会社に技術者として就職しました。そこで初めてコンピュータの原理を学び以来 60 年余、コンピュータは真空管コンピュータからマイコンまで通信はモデム通信からインターネットまで、その発展の推移を体験した技術者としてシニアになったいま、日本で直面している老人問題解決に多少なりともお役に立てればと「わしゃ元気」と名付けた独居老人見守りシステムを開発しシステムの提供を開始しました。この「わしゃ元気」システムについて少し書いてみたいと思います。

1. 「わしゃ元気」とは

いまごろ「わしゃ」なんていう老人がいるのだろうか？疑問を持たれるか、反発される方も多いと思います、が敢えて「わしゃ元気」と大正・昭和に戻ったような親しみのあるシステム名を使いました。人の繋がりが希薄になったといわれるこの時代だけに「わしゃ元気」システムを広く知っていただきたいと願っています。

「わしゃ元気」は次のようなコンセプトのもとで開発しました。独居老人（アクティブシニアと呼ぶ）のプライバシーや自尊心を尊重し、自助努力を支援することを第一に考えました。しかし老人であるがゆえに、

どんな突発事変がいつ起こっても不思議ではないことを踏まえそのシグナルを事前にキャッチし、適切なフォローをするしくみです。決してプライバシーを侵すことなく、それでいて身内をはじめ社会と繋ががある安心感を与えるしくみです。

2. 「わしゃ元気」の構成

2-1. 老人宅には人感センサーとその動きをセンターに送出するコントローラから構成されます。コントローラは固定電話回線用とモバイル通信（携帯電話網）用が準備されています。人感センサーは熱源を感知する広角センサーを採用しています。

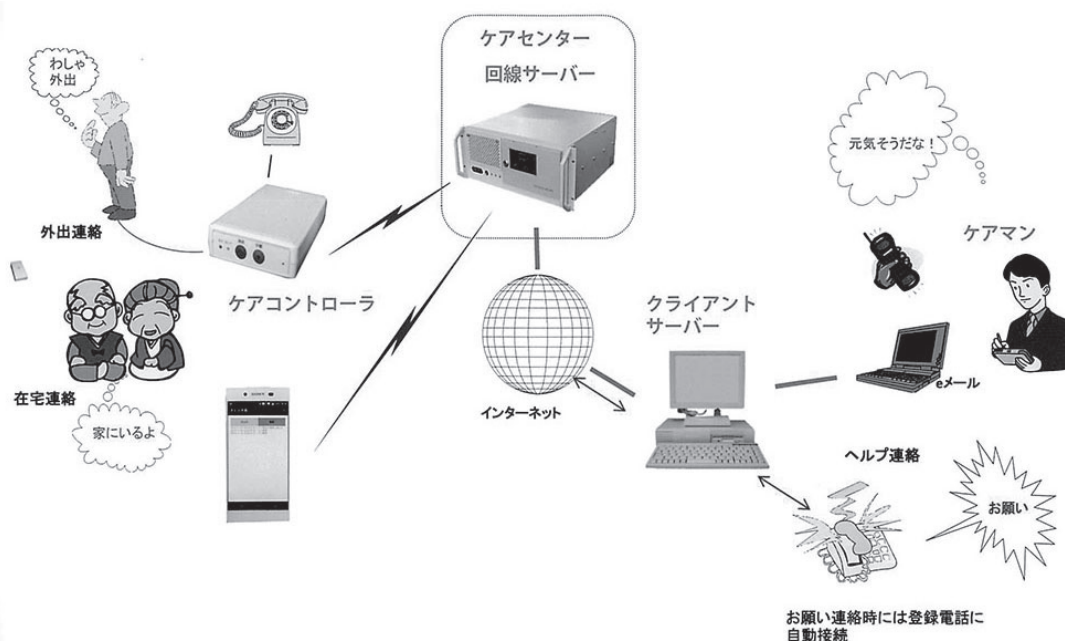


図1 「わしゃ元気！」導入イメージ（固定回線）

2-2. 人感センサーで感知した情報は有線または無線でコントローラに送られます。その後アクティブシニアの日常の動きは随時固定電話回線またはモバイル回線を通じてセンターの回線サーバーに送信されます。

2-3. 回線サーバーは、送信されてきたデータを、情報の発信源であるアクティブシニア宅のクライアント・サーバー（地域包括サーバーとも呼ぶ）に配信します。

クライアント・サーバーには地域内のアクティブシニア宅の諸情報がストアされており契約に応じたサービスを実行します。

2-4. 逐次クライアント・サーバーに届くアクティブシニア宅の情報は、まずは老人と関係の深い身内や友人にメールか音声応答で伝えられます。メールは感知した都度の送信も可能ですが、煩雑さを避けるため一般には一日一回あるいは2回のメールで届けられます。

2-5. クライアント・サーバーは、地域の特性によってサポートの質や内容は異なりますが、「見守り」「生活支援」など地域社会とのつながりを重視した仕組みを構築します。アクティブシニアとして安心して日々の生活を楽しむことが出来る地域包括ケア環境を作り出すことを目指しています。

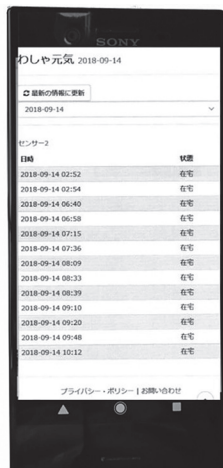


図2 キャプションをお願いします

すでに数社からは発表され一部サービスも供与されています。しかしこれらのシステムは「万が一の時知らせる仕組み」や「定期的にアクセスすることによって様子を確認する」たぐいの情報伝達が中心に考えられています。それは常時通信していたら通信料金が嵩みサポートしきれないからです。

「わしゃ元気」システムは「情報伝送装置、情報伝送方式および情報伝送プログラミング」の特許による特殊な通信手法を用いることにより、固定回線の場合は基本的に通信料金がかかりません。モバイル通信回線の場合は、通信専用SIMを採用していますので月にコーヒ一杯程度の通信料金ですみます。

3-2. 情報伝達はワールドワイド

日本の企業の海外進出に伴い大勢の日本人が海外の各地で活躍しています。海外での仕事の重要性が高まるにつれ派遣される人材も働き盛りの中年層が増え、この層は高齢期に入りつつある親を持つ人も多く見受けられます。「わしゃ元気」では海外で仕事に励みながら日本在中の親の元気な様子が日々のメールで知らされ安心して海外勤務に励めます。

4. 「わしゃ元気」地域包括ケアシステムの連携

アクティブシニア（独居老人）にも通常は血を分けた親族、親子の絆があり相互に情報を交換し気遣いながら日々を送っていくのが理想的な形態だとも思います。しかし日本では核家族化が進み仕事の絡みや住宅事情なども重なり離れて暮らすことは今や一般的であります。一方独居老人は体力的な衰えや精神的な萎えは避けられず日常生活で小さな手助けを必要とする人も多々生じます。「電球を取り換えたい」「物をすこし動かしたい」から「薬を取りに行きたい」、「日用品の買物をしたい」などでも健康人では考えが及ばない些細なことでも手助けがあれば一人で十分生活を維持できる能力を備えているシニアが多くいます。

昔は八百屋や魚やなどが近くにあり、巡回販売の豆腐屋や御用聞きなる便利な制度もありましたが、今は合理化優先、経済優先の流れの中で弱者は生活圏からはみ出されそうになってきています。ネットの時代ともいわれますが多くの

3. 「わしゃ元気」システムの特徴

3-1. 情報伝達料金は僅少

「わしゃ元気」システムに類似した見守りシステムは、

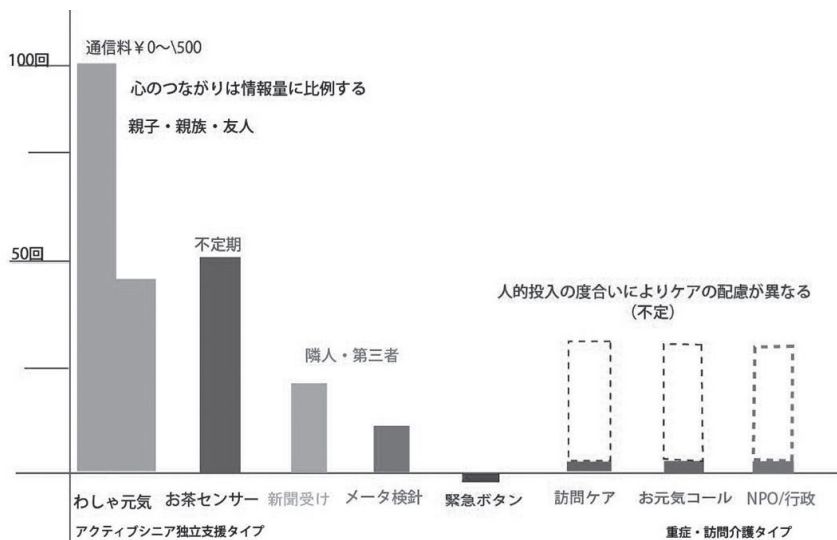


図3 コミュニケート頻度（端末利用回数に比例）

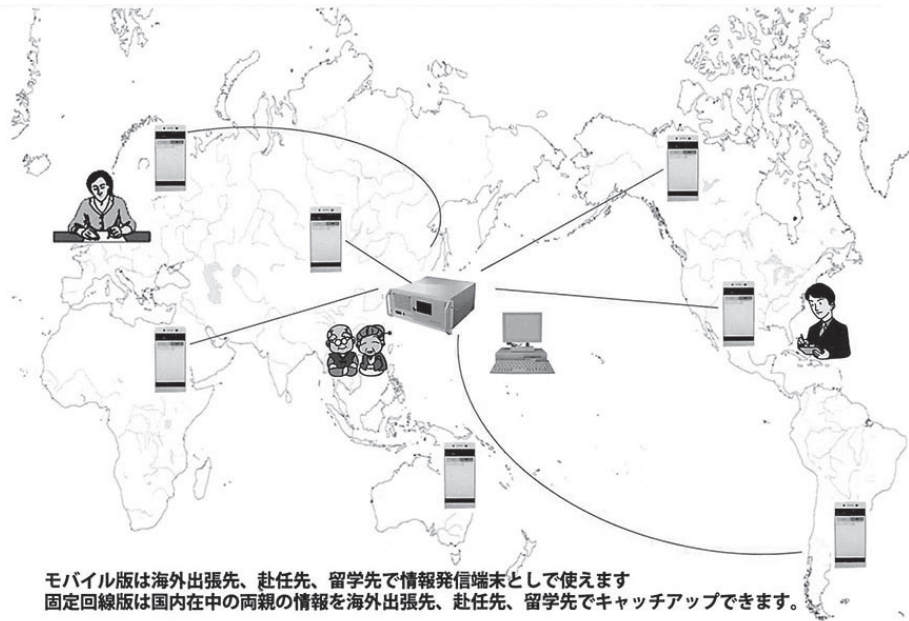


図4 「わしゃ元気！」情報の流れ

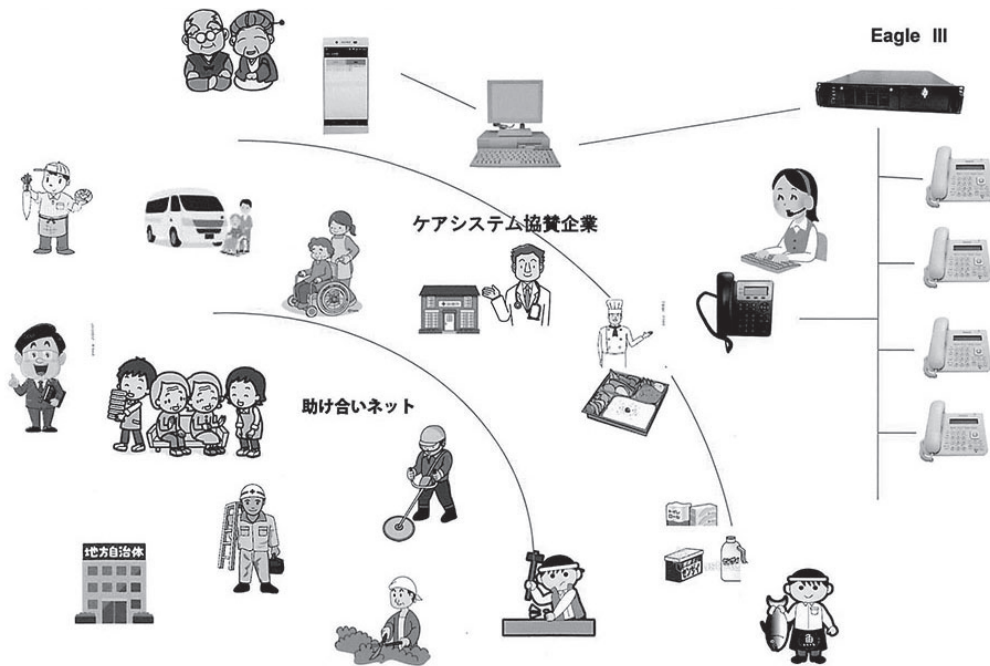


図5 地域包括ケアシステム

老人もネットの活用者になるべきで、老人もネットの恩恵にあずかれるような仕組みの提供が必要です。地域包括ケアシステムは昔の習慣やしくみの良さを復活させ住みよい環境をネットで構築していこうとする考えです。

むすび

「わしゃ元気」はその仕組み造りに役に立つ機能を備えています。地域ごとに地域包括ケアシステムの核になる企業やNPOが必要ですが、地域に密着した意欲ある企業や団体にご利用いただけるような情報通信網を

「わしゃ元気」システムとして提供しています。

<連絡先>

エー・エム・シー・インターナショナル
 代表取締役 正木 明
 〒 104-0023 東京都中央区八丁堀 4 - 4 - 5
 TEL : 03-5540-8200
 E-Mail : amasaki@amci.jp
 URL : <http://www..amci.jp>